

# 大阪 A・P・S コンソーシアム 介護スキルラボ

## 介護職技能実習生に対するベトナム講師派遣報告書

実施期間：令和元年9月16日（月）～令和元年10月19日（土）計34日

実施場所：ベトナム ハノイ ホアンロン教育第2センター

報告日：令和元年11月13日（水）

報告者：社会医療法人ペガサス 名倉 武

### 1.目的

- ① アジア健康構想の一環である外国人技能実習制度における、「介護職に関する知識、技能移転、人材還流」のため、現地派遣講師として約1ヶ月間、介護知識や技術の指導を行う。
- ② ベトナムでの生活において、現地の文化や習慣を知る。また、異国で生活を体験することで、現在来日している一期生や今後來日予定のCDクラスや二期生達の、日本という異国で生活する気持ちを知り、第二フェーズにおいての今後の活動につなげる。

### 2.クラス紹介

Aクラス 10名(N3取得者2名、N4取得者8名)10月19日付

N3取得者は特に日本語聴解力が高く、こちらが正しい日本語を話せばほとんど理解することができた。残りの8名もそれなりに日本語聴解力が高く、大きな声で少しゆっくり話すと、ほとんど理解できていた。休み時間や実技の待ち時間も単語帳や日本語の問題集で自習をする生徒が多く、その向学の姿勢には感動すら覚えることも多かった。クラスの雰囲気は、とても勢いがあり明るい、自我がはっきりしており、感情が高まると抑えが効かないところがあり、そのコントロールに苦労するところもあった。

Bクラス 9名(N3取得者2名、N4取得者7名)10月19日付

日本語聴解力については大きく個人差があり、その差ゆえに、講義の進行に著しく影響することも多かった。クラスの雰囲気は基本的におとなしく感情の起伏が少ない、どちらかといえば日本人クラスに多いタイプだったと思う。一対一で話すと当然だが皆個性があり、ベトナム語を積極的に教えてくれる生徒もいた。寮での自習を積極的に声掛けを行い、ベトナム滞在中の後半には自習の跡が見られ、成長を感じるところも多々見られた。



### 3.カリキュラムについて

#### ①排泄に関連したところとからだの基礎知識

講義では、認知症の症状や心身、精神機能の低下が排泄に及ぼす影響や、排尿便障害の種類、便秘の予防やその対応方法、下痢への対応方法や下痢と感染対策との関係性など、介護や医療の現場で必ず必要になる知識を、介護導入講習テキストや青本テキスト、初任者研修テキスト①、②の内容を細かくかみ砕き、ハー先生の通訳の力を借りながら、一人ひとりに理解してもらうよう努めた。

実技では、様々な排泄介助の方法を紹介し、実際にほとんどの種類の排泄介助の練習を行ってもらった。特に現場で一番実践することの多いであろうオムツ交換については全く未経験だった為、声掛けから一挙手一投足すべてメモしてもらった。一番丁寧であろう日本語の声掛けを覚えてもらい、どんな利用者や患者が相手でも対応できるよう指導を行った。



② 施設にある用品等に関連する知識・技術

今後配属される施設や病院等で使用する物品等の知識に関しては、ホアンロンにある物品を使って説明したり、初任者研修テキストの内容を説明したりして理解してもらうよう心掛けた。

③ 施設における掃除、洗濯、調理等。ベッドメイキング、居室環境整備

施設における掃除、洗濯、調理の意義や居室環境整備については、初任者研修テキスト②の内容を細かくかみ砕き、通訳の力を借りて理解してもらった。

ベッドメイキング・シーツ交換方法と必要性の理解に関しては、初任者研修テキスト②の内容を説明し、さらに実習では、いくつかの状況を想定し、パターンに分けてシーツ交換を実施してもらった。



#### ④ 事故予防・安全対策 緊急時や事故時の対応

介護におけるリスクマネジメントの説明の前に、ベトナムでの恐ろしいほどの交通事故を例にして考えてもらった。生徒全員がベトナムでバイクを運転しており、事故の予測や予防についてはある意味、その部分に関しては日本人より鋭いため、分かってもらいやすいと感じた。

テキストでは初任者研修テキスト①を使用し、ホワイトボードで絵をかいたり、分かりやすい日本語で説明したりして、リスクマネジメントの必要性、事故防止や安全対策の実際、介護事故発生時の対応、等を理解してもらった。

#### ⑤ 感染症対策に関する知識

感染症対策において、適切な手洗いは非常に重要であり、実技では普段行っている手洗いと、順序の通りの手洗いの実技を行ってもらい、手洗いチェッカーで比較し、効果を確認してもらった。

講義では初任者研修テキスト①を使用し、生活の場での感染対策や、感染対策の3原則の内容を細かくかみ砕き、通訳の力を借りながら、一人ひとりに理解してもらうよう努めた。

#### ⑥ 総合支援技術(テスト)

オムツ交換、車椅子の点検、適切な手洗い、事故発生時の対応の4つのテストを実施した。オムツ交換のテストにおいては、愛仁会の中塚先生と河野先生と私の計3名で採点したため、非常にスムーズに実施できた。事故発生時の対応のテストについては(下の写真参照)、3パターンの事故を想定し、どの事故の対応のテストになるか一人ひとりくじ引きを引いてもらい決定した。くじ引きを引いた後の生徒達の歓喜の笑顔は、私がベトナム滞在中で見た一番すばらしい笑顔だったと思う。



#### 4.ベトナムでの生活について

約1ヶ月のベトナムでの生活で1番気を使ったのが体調の維持だった。今年の4月に3日間のベトナム視察研修の際、帰国後下痢にやられた経験から、生野菜は一切口にしないと決め、他にも講師マンションから外出するときは常にアルコールタイプの除菌シートやアルコールスプレーを携帯し、お箸や皿は除菌シートで除菌、手洗い代わりにアルコールスプレーで手指の除菌を行った。

せっかくベトナムに来ているのだから、できるだけ日本食は食べないと誓っていたのだが、食事は幸いにも口に合わないものはほとんどなく、朝食は講師マンション下にあるフォー屋さん。昼食は通訳のハー先生夫婦と一緒にホアンロン近くのおばちゃん食堂(次の頁、写真参照)に通っていた。夕食が悩みの種で最初のころは頑張って外食していたが、途中からビンマートで食材を購入し、冷凍食品や炒め物等のベトナム風料理を調理し、マンションで食べるが多くなった。

休日にはできるだけマンションで過ごさないよう、どこかに行って見聞を広める事を目標とした。戦争博物館、ハロン湾や生徒の実家、ホアンキエム湖などに行き、出来るだけ体調と相談しながら、いろいろな経験を積むことができた。





## 5.まとめ

今回のベトナムでの講師経験は今までの人生経験とはまるで別の、まったく別の次元の経験だった。ホアンロン以外では日本語はもちろん、英語もほぼ通じない、また日本人と比べておもてなし精神も少ないお国柄ではあった。ただ、生徒の実家に行き、知り合いの、またその知り合いという風に沢山のまったく言葉も通じない男達と携帯アプリで翻訳しながら会話をして、お酒を酌み交わした事は一生忘れることができない経験となった。隣でお酒を飲んでいた男性は「ベトナム人も日本人と一緒に、こうやって絆を深めていくんだ」と言った。言葉や文化は違えど、人間の根本は同じだということを感じた。この経験を CD クラスや 2 期生が来日した際、還元したいと思う。

## 6.最後に

ベトナム派遣期間を無事に終えることができたのは職場の上司や同僚など様々な方々のサポートがあつてのことだと思っております。長尾部長をはじめ A・P・S メンバーの皆様には本当に色々お気遣いを頂き、また現地では、坪忠典さんご家族、ホアンロンセンターの皆様、2 期生の生徒のサポートもあり無事に過ごすことができました。馬場理事長、田中局長、魚野シニアアドバイザー、このような機会を与えていただき心より感謝するとともに、A・P・S コンソーシアムに関わるすべての方々に心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。